

「インターネット機能も充実」 今こそMac OS 8へ バージョンアップ!

清水 友彦

ついにマックユーザー待望の新OS「Mac OS 8」が9月26日に発売された。読者の中にはすでに手に入れた方も多だろう。

今回のメジャーバージョンアップでは、過去13年にわたるMac OS史上、最も大規模な改良が行われ、完成度、安定性ともにワンランク上のシステムに仕上がっている。とりわけネットワーク機能については、システムとアプリケーションの両面で見直しが行われ、統一感のあるインターネット環境を提供している。今回は、最新のシステムに移行するためにあらかじめ知っておきたい数々のTIPSを、他誌に先駆けていち早く紹介しよう。

Mac OS 8は
ここが変わる!

1. インターネット環境がすべてそろおう!

ネットスケープナビゲーターやインターネットエクスプローラといった業界標準のWWWブラウザなどを収録し、Open Transport技術をベースに統合ネットワーク環境を提供。

2. インターネットへの接続がラクラク!

Q&A形式で進められる接続ガイド機能と設定情報の共有により、ストレスのない快適なインターネット接続を提供。

3. インターネット技術でファイルが共有できる!

ローカルトークによるファイル共有技術を発展させ、イントラネット環境でほかのプラットフォームと情報の交換ができる。

アップルは5年間にわたるシステム7の開発を通じ、QuickTimeやPowerPCアーキテクチャーなどさまざまな先端技術を手掛けながら独自の文化を継承してきた。だが一方で、ウィンドウズ陣営によるシェア拡大を横目にユーザーニーズの対応に悩んだ時期でもあった。そうした苦境を糧に、新生アップルが出した答え、それがMacOS 8なのである。

MacOS 8を語るうえで重要なのは「システムのコンセプト自体が従来と異なる」という点だ。これまでのバージョンアップでは、アップル固有の技術にこだわるあまりシステム中心の改良が行われてきた。一方、MacOS 8では「ユーザーが必要としている機能とは何か?」という課題に正面から取り組み、その成果として、充実したインターネット関連ソフトとユー

ザー支援機能、そして洗練されたインターフェイスを備えた新システムが完成したのだ。

インターネット関連ソフトの充実については、デスクトップに新設された「メール」と「WWWブラウザ」アイコンや、パッケージに収録されているネットスケープナビゲーターをはじめとする業界標準のソフトウェアの数々を見れば、誰もが納得するだろう。

ユーザー支援の改善策として、「ヘルプ」メニューを通常メニューに統合し、アップルガイドを使いやすくした。さらに、システムやインターネットの準備を優しく指導する「アシスタント機能」や、「Mac OS インフォセンター」によるオンラインヘルプなど、新たなガイダンス機能からは「安心して使ってほしい」というアップルの心意気が伝わってくる。

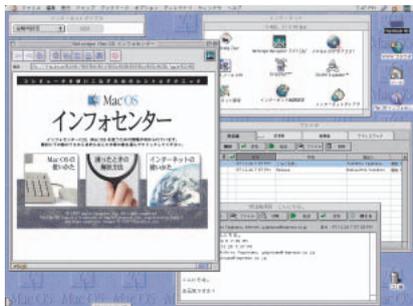
新しいデスクトップでは、操作性の向上を目指してさまざまな改良が施されている。状況により表示する項目が変化する「コンテキストメニュー」やアイコンをドラッグするだけでフォルダが開く「フォルダナビゲーション」など、使いやすさを追求した数々の仕掛けが面倒な手間を省いてくれる。さらに、マルチスレッド対応やファインダーのPowerPC最適化により、ストレスの少ない操作性を提供している。

使う側の視点で考えられたコンセプトは、見事なまでにMacOS 8に反映され、パッケージ全体の完成度を高める結果になっている。こうした面を意識して新システムを使ってみると、改めてマック環境の良さを再評価できるはずである。

新生アップルの出した答え「MacOS 8」

MacOS 7.6 vs MacOS 8

「使いやすいシステム」から「使えるシステム」に進化し、インストールしたその日から実践で使い込める新機能が数多く用意されている。なかでもシステムと統一感のあるインターネット環境の構築に力が注がれており、WWWブラウザや電子メールソフトが一体となった実用性の高いシステムをユーザーに提供している。



【動作環境】

MacOS 8は、68040およびPowerPC プロセッサを搭載するマッキントッシュ、MacOS搭載機で動作する。68040の場合、最低12Mバイト（推奨24Mバイト以上）、PowerPcの場合、最低16Mバイト（推奨32Mバイト以上）のメモリーが必要。また、ハードディスクには200Mバイト以上の空き容量が必要となる（必要な空き容量はシステム構成によって異なる）。

【価格】

MacOS 8 : 24,000円
MacOS 7.6 to 8アップグレードキット : 12,000円

従来のMacOSとMacOS 8のコンセプト比較

MacOS 7.6	MacOS 8
OpenTransport、同PPPを中心としたネットワーク環境の整備、統合	インターネットの利用を意識した新機能とアプリケーションの充実
旧システムのバク対策、システムの安定化推進	ファインダーのPowerPC最適化、マルチスレッド対応による操作性の向上
旧システムのガイドラインに沿った限定的なユーザーカスタマイズ機能	3D化などによる次世代インターフェイスの採用、豊富なカスタマイズ機能の提供
アップル純正製品によるシステム機能中心のパッケージ構成	ネットスケープ社やマイクロソフト社など、アップル社以外の製品も収録したパッケージ構成
アップルガイドによる操作手順中心のヘルプ機能	アシスタント機能とインフォセンターによる導入、トラブル支援
AppleTalkによるファイル共有	イントラネットを意識したファイル共有

WWW ブラウザー

業界標準の2大WWWブラウザを収録!



オプション扱いであるが、マイクロソフト社の「インターネットエクスプローラ3.01」が収録されている。



MacOS 8では「ネットスケープナビゲーター3.01[ja]」が自動的にインストールされる。

MacOS 8には「ネットスケープナビゲーター（以下ネットスケープ）」と「インターネットエクスプローラ（以下IE）」が収録されている。いずれも日本語版のバージョン3.01で、標準インストール時にはネットスケープがハードディスクに保存される。一方、IEはオプション扱いで個別にインストールしなければならないが、IEのインストーラーが面倒な設定の手間を省いてくれるのでセットアップに悩むことはない。

ところで、両ブラウザともバージョン4.0が製品もしくは評価版として公開されており、一部のユーザーは収録されているバージョンに物足りなさを感じるだろう。しかし、ソフトの納期やライセンスなどパッケージ化の過程では現実的な問題があり、必ずしも理想どおりい

かないものである。こうした点は次期バージョンで前向きな改善を期待したい。

また、「Cyberdog」も選択肢の1つである。Cyberdogを活用すれば、WWWブラウザ、電子メール、FTP、ニュースなどのサービスを自由に組み合わせ、自分好みのインターネット環境を作成できる。今後バージョンアップすることのないソフトであるが、ほかのソフトにはない使い勝手の良さが魅力である。

これだけの選択肢が用意されると、どのWWWブラウザを使うか悩むところであるが、肝心な使いやすさについては個人差があるため、ひととおり試用したうえで自分に合った製品を感性で選ぶ。これこそマックユーザーの正しい選び方であるような気がする。

どこまで使える？ アプリケーション一挙紹介!

WWWブラウザから便利なツールまで

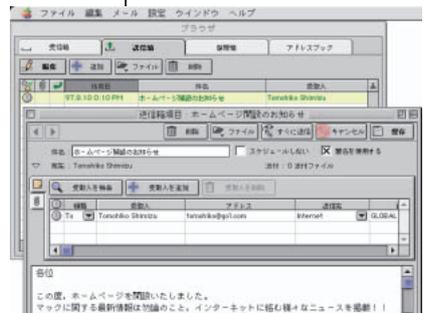
MacOS 8のパッケージには、2大WWWブラウザをはじめ、電子メールソフトやプラグインなどの数々の定番ソフトが贅沢に収録されている。豊富なソフトをシステムのインストール直後から利用できるだけでも、MacOS 8に移行する価値がある。しかし環境が充実した一方で、使用ソフトの選択肢も増え、選ぶポイントが重要になってきた。

電子メール

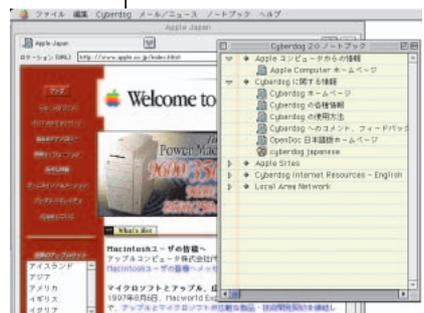
人気上昇中のクラリスメールのLite版を収録!

最近では、さまざまなスタイルの電子メールソフトが登場し、以前のようにEudora一辺倒という傾向が薄れてきた。なかでもクラリスメールは、ニフティサーブを含むマルチアカウントの運用ができるとあって人気を集めている。MacOS 8では、機能限定版の「クラリスメールLite」を収録しており、デスクトップ上の「メール」アイコンから起動できる。Lite版では、マルチアカウントなどの機能が省略されてはいるものの、ドラッグ&ドロップ操作やスケジュール機能などは製品版と同等である。これまでEudoraやネットスケープメールなどを愛用してきたユーザーは、MacOS 8を契機に、一

度クラリスメールLiteを試してみることをおすすめする。最初のうちは操作環境の違いに戸惑うこともあるだろうが、フィルター機能によるメール管理やドラッグアンドドロップ、メール内のURLをクリックするとWWWブラウザが起動するアクティブURLといった機能などは、快適なメール環境を実現してくれるだろう。またCyberdogを使っているユーザーは、バージョン2.0の内容をチェックしてみよう。ほかのメールソフトでは味わえない心地いい操作感を考えると、乗り換えるかどうかで悩むユーザーも多いことだろう。



「クラリスメールLite」はマックらしい操作環境で電子メールの作成や管理ができる。Lite版の機能が不満であれば製品版に移行できる(有料)。



「Cyberdog」は2.0にバージョンアップし、さまざまな改善がされている。

プラグイン

ショックウェーブほか定番プラグイン3種収録！

最先端のウェブ技術に対応したプラグインも多数収録されている。なかでも、デジタル化された文書の配布に便利な「アクロバットリーダー」は、PDF形式の書類を読む場合に必須である。リーダーに同封されている「PDFViewer」は、WWWブラウザのプラグインフォルダに必ず入れておきたい。

マルチメディア関連のホームページにアクセスする機会が多いユーザーであれば、「ショックウェーブ」と「QuickTime」は欠かせない。ショックウェーブには、ディレクターとフラッシュ

用のコンポーネントが用意されており、ショックウェーブ専用のインストーラーで簡単にセットアップできる。一方、最新の「QuickTime VR」などは標準でインストールされるが、IEユーザーはネットスケープ用の「QuickTime Plugin」を、「インターネット」「インターネットアプリケーション」「Navigator」「Plug-ins」フォルダから「インターネットエクスプローラ」「インターネットエクスプローラ」「Plug-ins」フォルダにコピーして使用する必要がある。

ツール

接続ツールから圧縮ツールまで幅広く収録！

インターネットへの接続を支援する「インターネットダイアラ」は、ネットワーク環境の切り替えとインターネットへの接続、切断をパネルだけで操作でき、いままで面倒だった手順を簡単にしてくれる。また、アップルメニューに追加された「接続する...」を利用すれば、URLを入力するだけで、WWWブラウザが自動的に起動し、目的のホームページにアクセスできる。

圧縮展開ツールとして、「StuffIt Expander」と「DropStuff with Expander Enhancer」が標準でインストールされる。ファイルをドロップするだけで圧縮と展開ができ、さらに「Expander Enhancer版」(シェアウェア30ドル)を使えばZIP形式やtar形式など、ほかのプラットフォームで利用されている圧縮ファイルも扱える。



「インターネットダイアラ」を使えば、インターネット環境の変更や接続、切断の操作が簡単に実行できる。



アップルメニューに「接続する...」項目が追加され、ウェブページに直接アクセスできる。

英語版で提供されているプッシュ型情報サービスは先送り

いま旬の話題といえば、ユーザーのニーズに応じた情報を発信するプッシュ技術だろう。英語版MacOS 8には、Javaを利用した「Castanet Tuner」(マリンバ社)と、スクリーンセーパ機能を持つ「PointCast Network」(PointCast社)が収録されている。どちらも日本語でのサービス提供の準備が進められており、アップルジャパンでは、今後の動向を見ながらMacOS 8への対応を検討するようである。



「PointCast Network」を利用すると、テレビ番組を見る要領で、最新のニュースや天気予報、株価情報を入手できる。



「Castanet Tuner」は、Java技術を利用してプッシュ型の情報提供をするソフトである。

これがMacOS 8に収録されているソフトウェアだ!

WWW ブラウザー

ネットスケープナビゲーター 3.0.1[ja]
インストール先:「インターネット」「インターネットアプリケーション」

インターネットエクスプローラ 3.0.1J
インストール先:「インターネットエクスプローラ」

オプション扱いのため個別にインストールしなければならない。インストールはMacOS 8のシステムCD-ROMにある「Internet Explorer」からインストーラーを起動する。

Cyberdog 2.0
インストール先:「インターネット」「インターネットアプリケーション」

MacOS 8をインストールするとき「ソフトウェアのインストール」の画面で「Cyberdog」にチェックを付けるとインストールされる。

電子メール

クラリスメールLite 1.1
インストール先:「インターネット」「インターネットアプリケーション」

プラグイン

ショックウェーブ(Director、Flash)
インストール先:「インターネット」「インターネットアプリケーション」「Navigator」
「Plug-ins」

オプション扱いのため個別にインストールしなければならない。インストールはMacOS 8のシステムCD-ROMにある「インターネットエクストラ」「Shockwave」からインストーラーを起動する。

アクロバットリーダー 3.0J

インストール:「Adobe Acrobat 3.0J」

オプション扱いのため個別にインストールしなければならない。インストールはMacOS 8のシステムCD-ROMにある「インターネットエクストラ」「Acrobat Reader 3.0J」からインストーラーを起動する。

ツール

StuffIt Expander Enhancer 4.0J
インストール先:「インターネット」「インターネットユーティリティ」「Aladdin」

DropStuff with Expander Enhancer 4.0J

インストール先:「インターネット」「インターネットユーティリティ」「Aladdin」

MacOS 8のインストール時にはインストーラーの状態ハードディスクに保存される。インストールするとインストーラーと同じフォルダに保存される。

QuickTime VR 2.0

インストール先:「インターネット」「インターネットアプリケーション」「Navigator」
「Plug-ins」

インターネット設定(Internet Config)

インストール先:「インターネット」「インターネットユーティリティ」

Mac OS Runtime for Java 1.0.2

インストール先:「システムフォルダ」「機能拡張」

オプション扱いのため個別にインストールしなければならない。インストールはMacOS 8のシステムCD-ROMにある「Mac OS 特別付録」「MacOS Runtime for Java」からインストーラーを起動する。

インターネットダイアラ

インストール先:「インターネット」「インターネットユーティリティ」「クライアントアクセス」

これで安心！

MacOS8 乗り換え TIPS 10

失敗しないバージョンアップ法

新システムの導入をきっかけにハードディスクを初期化するユーザーは、これまでに蓄えた大切な情報や資源をバックアップしておこう。ここでは、バージョンアップ前にバックアップしておきたいインターネット関連の大切なデータや設定ファイルをまとめて紹介する。なお、ここでバックアップしておいたファイルは、それぞれのソフトのインストール後にもとのフォルダに戻せば使用できる。

これだけは必ずバックアップしよう！

TIPS 1

ネットスケープナビゲーターの設定ファイル

バージョン3.0であれば「システムフォルダ」
「初期設定」「Netscape」
「Bookmarks.html」にブックマーク情報、オプション設定は「Netscape Preferences」、メール情報は「メール」にそれぞれ記録されている。なお4.0版は「Netscape Users」の階層内に同名のファイルが保存されている。

TIPS 2

インターネットエクスプローラの設定ファイル

「システムフォルダ」「初期設定」
「Explorer」「Favorites.html」と
「History.html」にお気に入りの情報が保存されているので忘れずにバックアップしておきたい。なお、エクスプローラ本体は、さまざまなライブラリーファイルを使用しており、すべてをバックアップするのは困難であるため、最初からインストールしなければならない。

TIPS 3

Eudora / Eudora Pro の設定ファイル

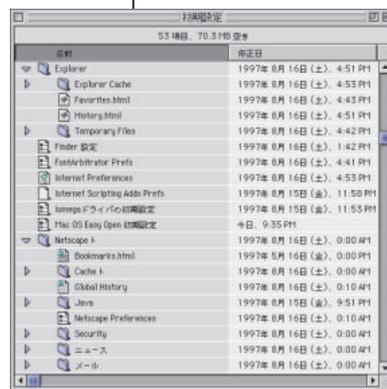
電子メールの場合、これまでの記録を消してしまうと、相手先のアドレスが分からなくなってしまうため、必ずメール情報全体をバックアップしてほしい。フリーソフトウェア版のEudoraユーザーは「システムフォルダ」「電子メールフォルダ」、製品版のEudora Proの場合は「システムフォルダ」「Eudora フォルダ」に、メールボックスに関する情報が記録されている。なお、メールの数が多き場合、データサイズが数メガバイトにもなるため、MOやZIPなどの大容量のバックアップメディアが必要になる。

TIPS 4

「インターネット設定」の設定ファイル

「システムフォルダ」「初期設定」
「Internet Preferences」に設定情報などが保存されている。しかし、MacOS 8ではこのツ

ルを参照しながら起動ソフトを決定しているため、できるだけ初期値を大切にしたい。そこで、バックアップした初期設定の内容は使用せず、MacOS 8をインストールしたあと、改めてヘルパーなどを設定したほうが余計なトラブルを回避できる。



「初期設定」フォルダのなかに、ネットスケープやIEに使用する設定ファイルが記録されている。

TIPS 5

アップル社以外の初期化ツールを使っているとき

最近のシステムバージョンアップでは、パフォーマンス向上の一環としてファイル管理機能が少しずつ変更されているため、ハードディスクを制御するドライバーソフトの互換性をチェックする必要がある。

アップル純正の「ドライブ設定」で初期化したハードディスクであれば、MacOS 8のインストーラーがドライバーを自動的に更新してくれ

る。しかしアップル社以外の初期化ツールを利用しているユーザーは、新システムをインストールしたい気持ちをおさえて、各メーカーが運営するホームページなどでMacOS 8でも使用できるかどうかを必ず確認してほしい。

一般のソフトウェアの場合、2通りの互換レベルがある。1つ目は「アビアランス」などに代表される新機能のサポート。2番目はシステ

ムレベルでの互換性であり、後者にあてはまる拡張機能や診断ツールなどは、使用前にMacOS 8でも使用できるかどうかを確認すべきである。詳細については、私のホームページ (<http://www2.gol.com/users/tomohiko/>) でMacOS 8の互換性に関する情報を公開しているので、是非参考にしてほしい。

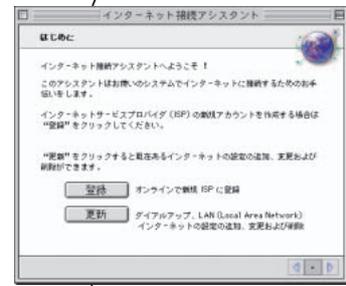
TIPS 6

「アシスタント」でラクラク設定

MacOS 8のセットアップは、「Mac OS 設定アシスタント」と「インターネット接続アシスタント」のそれぞれを通じて行うことができる。インストール直後に各アシスタントで初期設定を行ったあとは、そのつど「アシスタント」フォルダを開いて、設定内容を変更できる。

インターネット接続アシスタントでは、IIJ4U やSo-netなど、あらかじめ用意されているプロバイダーにオンラインサインアップできる「登録」と、すでにプロバイダーとの契約を済ませているユーザーが接続に必要な情報を入力する「更新」のいずれかを選択する。「新規」の場合、

アップルがインターネット上に開設している「Apple Internet オンライン登録サーバー」でプロバイダーを選択して、契約手続きを行っていく。一方の「更新」では、いままでも「TCP/IP」などで設定していた内容を、分かりやすい手順で入力できる。更新の手続きでは、112種類のモデムスクリプトが用意されているが、もし使用中の機種名が見つからないときは、システムCD-ROMの「モデムスクリプト追加」フォルダをチェックするか、Open Transport/PPP用あるいはApple Remote Access用のCCLファイルが入手できるかどうかを製造メーカーに問い合わせしてほしい。

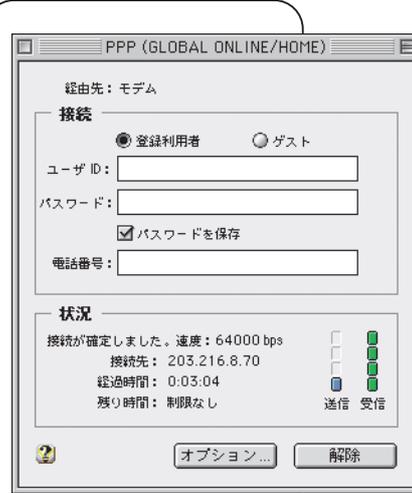


接続アシスタントの初期画面で、アカウントの新規登録が既存のアカウント情報の追加を選択する。

TIPS 7

いまままでどおりの手順で設定

FreePPPのようなアップル純正でないIPPPソフトは、「インターネット接続アシスタント」に対応していないため、従来どおりの手順で設定しなくてはならない。また、接続時のトラブル対策では、アシスタント機能に頼らず、初心に戻る心構えも忘れずにおきたい。



バージョン1.0.1となり、「TCP/IP 1.2」への最適化や「Web 共有」機能への対応が行われた。

TIPS 8

「インターネット設定」で一括設定

フリーソフトウェアとして配布されていた「インターネット設定 (InternetConfig)」が、システム標準ツールに昇格した。同ツールで設定した電子メールアドレスやヘルパーアプリケーションの情報は、メールソフトやWWWブラウザなどの初期設定に反映されるので、ソフトウェアごとに何度も同じデータを入力する手間を省ける。またシステム標準のツールも、この設定を参照しているため、ユーザー自身で起動ソフト

などを変更する際にも役にたつ。

【インターネット設定対応ソフト】

- デスクトップ上の「WWW ブラウザ」と「メール」
 - アップルメニューの「接続する...」
 - ネットスケープナビゲーター 3.0.1
 - インターネットエクスプローラ 3.0.1
 - クラリスメール Lite 1.1v2
 - Anarchie 2.0.1
 - Fetch 3.0.3
 - NetFinder 1.1.3
 - NewsWatcher 2.12
 - ユードラプロ 3.0.2
 - CyberGate 2.1.2
- () はMacOS 8 に収録されている

TIPS 9

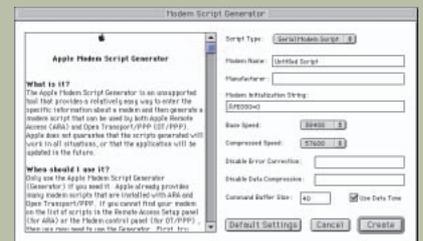
インターネット起動設定

複数のネットワーク環境から任意の設定に切り替えたり、「インターネットダイアラ」で接続した直後の起動ソフトを指定する機能を提供している。「インターネット」フォルダ内に隠れているため見落としがちであるが、デスクトップにエイリアスとして置いておきたいツールの1つだ。

TIPS 10

モデム用のスクリプトファイルが入手できない

どうしても使用モデム用のスクリプトファイルが入手できない場合は、「Modem Script Generator」というツールを試してみよう。ただし、このツールを使用するためには、モデムに関する程度の技術的な知識が必要である。また、開発用のバージョンのためアップル側のサポートは期待できない。入手先<http://www.swupdate.info.apple.com/>の/Macintosh/Unsupported/



「Web 共有」とは、ローカルのハードディスクに構築した個人のウェブページを、LAN に接続した各パソコンで共有し、情報をお互いに利用する仕組みをいう。「Web 共有」は、CGI や MIME タイプの変更などもサポートしており、インターネット上のホームページと同等な機能を活用することもできる。これまで、専用のウェブサーバーやファイルサーバーなどで構築してきたサービスを個々のマッキントッシュに分散し、簡易版のイントラネット環境を作ってしまうという発想なのである。また、ウェブ形式により情報を公開することで、MacOS に限らずウィンドウズやUNIX などからでもアクセスできるように、異なるプラットフォーム間で自由に情報を交換する手段として活用できるのである(図1)。

パーソナルウェブはLAN 環境以外にダイヤルアップ環境でも構築できるのだろうか。もちろん、IP アドレスを確定できれば理屈の上では可能である。しかし、プロバイダーにアクセスするたびにIP アドレスが変わってしまうダイヤル

アップ環境では、相手にIP アドレスを知らせるだけでも手間がかかってしまう。電話料金があまりかからない範囲内の相手とファイルを共有するなら、従来どおり「Apple Remote Access」などを活用したほうがよいだろう。

ダイヤルアップ環境で「Web 共有」を開始した場合、アップル純正のPPP はプロバイダー

への接続を告げるダイアログを表示しない。これはOpen Transport/PPP 1.0.1 の仕様変更によるものである。したがって、不用意に共有を開始すると、知らない間に通話料金が課金されてしまうという悪夢のような状況になりかねない。このあたりは、十分に気をつけてほしい点だ。

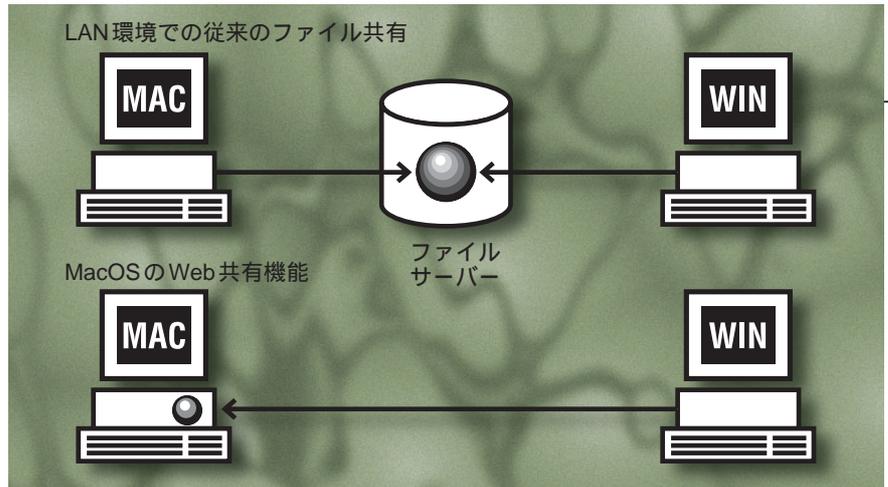


図1 異なるプラットフォーム間でのファイル共有例

イントラネットを使った ファイルを共有してみよう!

ウィンドウズと情報交換

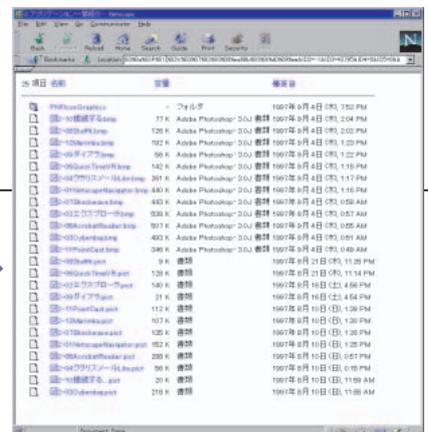
これまで、標準で実装されていたローカルトーク機能でファイル共有の機能を提供してきた。MacOS 8では、従来のファイル共有を一步発展させ、ウェブ技術でほかのプラットフォームと簡単に情報を交換できるようにする「Web 共有」を用意している。今後、イントラネットやSOHO環境で、「Web 共有」を活用してみよう。



「Web 共有」の対象となるフォルダにはセキュリティ対策として利用者のアクセス権を設定しておきたい。共有したいフォルダを選択し、「ファイル」メニューから「共有」を選ぶとアクセス権の設定ができる画面が表示される。



「Web 共有」コントロールパネルの画面で、パーソナルウェブのコンテンツ指定や共有の開始、停止を行う。



「Web 共有」のコントロールパネルの画面に表示されるIPアドレスをWWWブラウザに入力すれば、ウィンドウズ95やUNIXから「Web 共有」を開始しているマックにアクセスできる。

MacOS 8へ

バージョンアップしよう!

米国では2週間足らずで120万本

MacOS 8は、米国で7月下旬に発売以来、2週間足らずで120万本以上の売り上げを記録したミリオンセラーシステムである。こうした状況が物語るとおり、これまでバージョンアップを控えてきた多数のユーザーが、MacOS 8のリリースを契機に新システムへの移行を決断したわけである。

マーケットの評価が高い最大の理由は、マルチスレッド対応や、さらに使いやすくなったフ

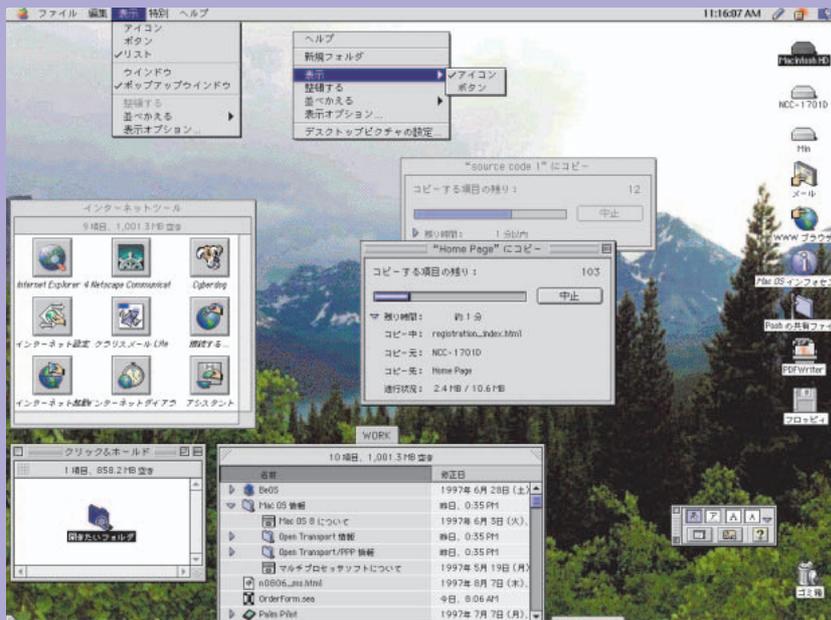
ァインダーなどの新機能と業界標準の2大WWWブラウザなどを含むパッケージ構成、それとシステムの安定性であろう。さらに付け加えるなら、スティーブ・ジョブズ氏が現在のアップルを支えている事実も、ユーザーに底知れぬ安心感を与えているに違いない。

さらに日本語版では、「ことえり」や「Osaka フォント」の変更など、国内の事情を考慮した改良が盛り込まれている。一見地味な

内容であるが、いずれも利用頻度が高いインターフェイスであるだけに、重要なポイントとして評価したい。

以上のようにMacOS 8はバージョンアップしようという気持ちにさせる優れたシステムである。マックユーザーはMacOS 8をインストールする前に、バージョンアップに向けた準備を抜かりなく進めておこう。

これが MacOS 8 のデスクトップだ!



1. **スティッキーメニュー**：メニューのプルダウン操作を保留し、項目の選択をしやすく改良した。
2. **コンテキストメニュー**：コマンドキーを押しながらデスクトップやファイルなどをクリックすると、さまざまなファイル操作を直接行える。
3. **メール**：初期値では「クラリスメール Lite」が起動する。起動ソフトは「インターネット設定」で変更が可能。
4. **WWW ブラウザ**：初期値では「ネットスケープナビゲーター」が起動する。起動ソフトは「インターネット設定」で変更が可能。
5. **Mac OS インフォセンター**：オンラインマ

- ニュアルがWWWブラウザに表示される。
6. **ことえりの操作パレット**：変換の性能や環境設定を中心に大幅な機能の強化が施されている。
7. **ファイルコピー操作**：マルチスレッドによりコピー操作の並行処理が可能となったほか、コピー操作の状況を詳細に確認できるように改良された。
8. **ポップアップウィンドウ**：デスクトップの最下部にウィンドウを常駐させ、タブで引き出せるようになった。
9. **ボタン表示**：フォルダ内の各オブジェクトを

ボタン化できるようになった。

10. **フォルダ**：フォルダを1.5回(2回目のクリックで保持)クリックすると、フォルダ内の階層を順に確認できる。また、フォルダにファイルをコピーする際にもこの機能が有効になる。
11. **デスクトップピクチャー**：コントロールパネルやコンテキストメニューからデスクトップの背景画を任意に変更できる。
12. **ゴミ箱**：フォルダやファイルを選択後、コントロールキーとdeleteキーを同時に押せば、即ゴミ箱に移動できる。

Point! これまでの解説を読んでお分かりのように、MacOS 8では小物ツールが数多く用意されている。しかし、新設のフォルダが増えた(しかもフォルダの階層が深い)こともあり、すぐに目的のツールを見つけづらい面がある。そこでMacOS 8を初めて使うときに、289ページのソフトウェア一覧を参考にして、初めて出会うツールのエイリアスをデスクトップに置いておくことで全体を把握しやすくなる。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp